

# 1534-35年北西ヨーロッパにおける再洗礼主義の拡大と人間関係のネットワーク ～ミュンスター、下ライン地方、南ネーデルラントを中心に～

2011年10月2日（日）東北史学会西洋史部会 於：東北大学  
東北大学大学院文学研究科専門研究員 永本哲也  
(saisenreiha@gmail.com / TWITTER: @saisenreiha)

## 1 はじめに

### 1.1. 問題の所在

#### 宗教改革神学の広がり

- ・宗教改革運動は説教師による宗教改革神学の説教から始まる。(Ozment)
- ・宗教改革神学の拡大。印刷物だけでなく、説教師や家族などの個人的な人間関係によって伝播した。(Scribner)

#### 北西ヨーロッパでの再洗礼主義の拡大

- ・1534年2月にヴェストファーレンの中心都市ミュンスターで、再洗礼派が統治権を得る。ミュンスター再洗礼派は、強い終末期待に基づき、市内で財産共有制、一夫多妻制、王制などの制度改革を行い、都市を包囲する司教軍と約1年半の間戦う。1535年6月に都市は司教軍によって占領され、再洗礼派統治は終わる。
- ・再洗礼派統治期のミュンスターには、北西ヨーロッパ各地から数千人の再洗礼派が流入した。また、ミュンスターから各地に使徒が派遣され、宣教が行われた。
- ・ミュンスターを中心として再洗礼主義が北西ヨーロッパ一帯に広がる。ヴェストファーレン、オランダ、フリースラント、下ライン地方、南ネーデルラント。(地図)
- ・再洗礼派宗教改革：北西ヨーロッパで大規模で組織的な宗教改革運動が顕在化した最初期の例。

課題：北西ヨーロッパにおける再洗礼派主義の伝播の経路を、再洗礼派相互の人間関係を通じて明らかにする。

### 1.2. 分析対象、方法、史料

#### 分析対象

1. 地域：研究の層が薄い下ライン地方、南ネーデルラントに限定（Rembert, Goeters, Habets, Kipp）。今回は、この地方の再洗礼派の中心地、ケルン、ヴェーゼル、マーストリヒトに限定。
2. 指導者たちの相互関係

#### 方法と史料

- ・分析方法については後述。
- ・主要な史料は、各地で逮捕された再洗礼派の審問記録。

## 2 再洗礼派運動の中心地と指導者たち

・**ミュンスター Münster** : 1534年2月に再洗礼派が統治権を得る。ミュンスター司教の軍隊が、ミュンスターを包囲し、攻城戦を行う。ハーレム出身の預言者ヤン・マティスが指導者。1534年復活祭にマティスが死んだ後、ヤン・ファン・ライデンが指導的地位に就く。1534年9月に、彼を王に頂く王制が導入される。1534年10月以降、各地の再洗礼派にミュンスター救出を呼びかけるが、救出は来なかった。1535年6月に司教軍により占領される。

**ヤン・ファン・ライデン Jan van Leiden** : オランダのライデン出身の仕立て屋。1534年1月にミュンスターにやって来て、9月には王になるなど、ミュンスターで指導的地位に就く。ミュンスター陥落後逮捕、処刑される。

**ハインリヒ・ロール Heinrich Roll** : 北ブラバントのグラーフェ Grave 出身の元カルメル会士。オランダやユーリヒ公領で司牧を行う。1532年夏にミュンスターにやってきて、市内の宗教改革や再洗礼派運動で中心的役割を果たした説教師。1534年2月にミュンスターを離れ、下ライン地方やオランダで宣教を行う。1534年9月にマーストリヒトで逮捕・処刑される。

・**ケルン Köln** : おそらくミュンスター再洗礼派の影響で、市内で再洗礼派共同体が作られる。1534年秋に指導者ヴェスターブルク兄弟が市外追放され、リヒラートら三人の再洗礼派が処刑されたが、その後も再洗礼派共同体は存続。1534年末には市内に700人の再洗礼派がいたという証言も。

**ゲルハルト・ヴェスターブルク Gerhard Westerborg** : ケルンの富裕な商人の家系出身。法学博士。1520年代からニコラウス・シュトルヒやカールシュタットと交流を持ち、1525年にフランクフルトでの蜂起に参加するなど、宗教改革支持者として活動。1534年初めにミュンスターでロールから洗礼を受ける。おそらくケルン再洗礼派共同体の創始者。1534年秋にケルンを追放され、再洗礼主義と手を切る。

**リヒャルト・フォン・リヒラート Richard von Richrath** : ケルンのガラス職人。1534年2月にゲルハルトの手により、ケルンで洗礼を受ける。ケルンで洗礼を行うだけでなく、アーヘンやフランクフルト、メールスなど他の地域に赴き、宣教・洗礼を行った。1534年10月に逮捕され、11月に火刑に処された。

・**ヴェーゼル Wesel** : 1534年2月には、既にミュンスターから派遣された使徒が来ているなど、ミュンスターの再洗礼派と関係を持っていた。1534年2月と夏の最低二回ロールが来訪し、洗礼を行った。1535年1月に、ミュンスターの使徒グラエスの裏切りによって、市内での反乱計画が諸侯側に漏れたため、多くの再洗礼派が逮捕・処刑された。これにより、市内の再洗礼派共同体は壊滅した。

**ハインリヒ・クニッピンク Heinrich Knippinck** : 毛織物工の親方。1530年代初頭から、市内の宗教改革派として中心的な役割を果たした。1534年2月にミュンスターでの再洗礼派統治が始まると、ミュンスターに赴いた。彼は、ヴェーゼルからミュンスターに食糧や武器を運搬するために、両都市を行き来していた。

**オットー・フィンク Otto Vinck** : 市参事会員格の家門に属し、市のレントマイスターを務めていた。1530 年代初頭から、宗教改革派や再洗礼派を自分の家に泊めていた。1534 年夏に、ロルから洗礼を受ける。1535 年 1 月の迫害時に逮捕・処刑される。

**・マーストリヒト Maastricht** : 既に 1527 年にはルター派共同体が市内に存在した。1534 年夏にロルがやって来て、市内で洗礼を行い、再洗礼派共同体が拡大した。さらに、近隣のユーリヒ公領西部から、多くの再洗礼派が亡命してきた。1535 年 1 月に、市参事会による迫害が強まり、多くの逮捕者が出て、市内の再洗礼派共同体は壊滅した。

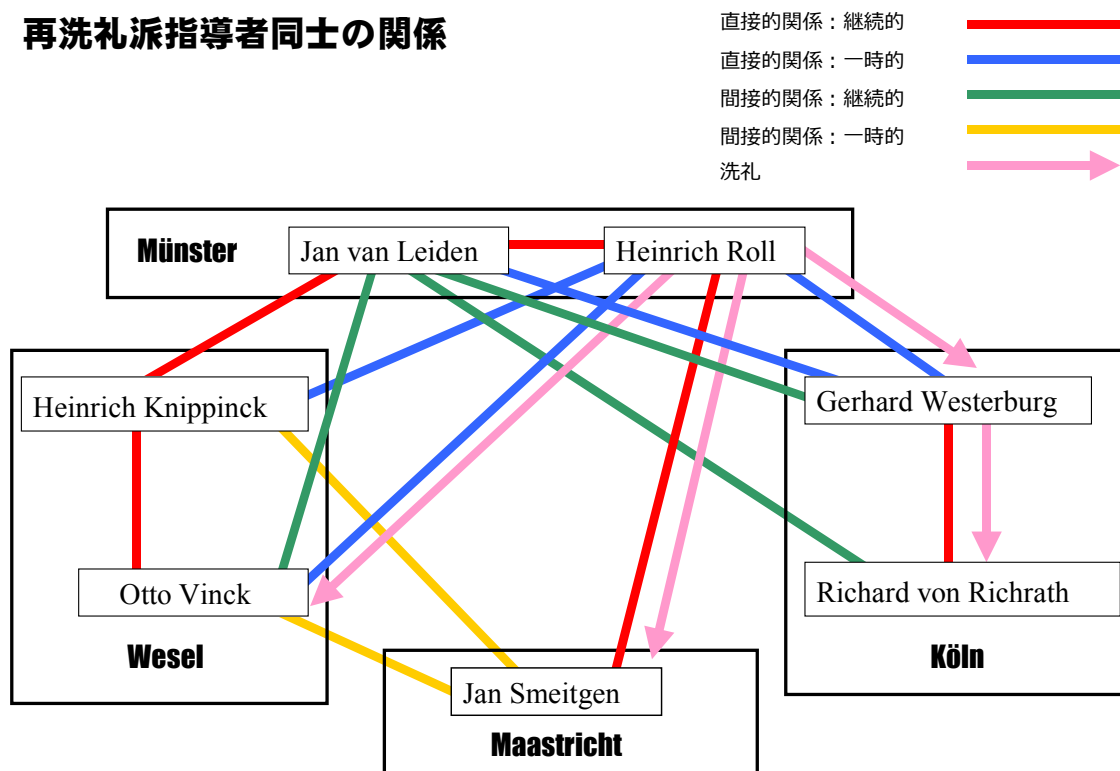
**ヤン・スメイトヘン Jan Smeitgen** : 鍛冶屋ツンフトの親方。1534 年夏にロルから洗礼を受ける。9 月にロルが処刑された後、マーストリヒト再洗礼派の指導者である「司教」として市内で洗礼を行う。ユーリヒでも宣教を行う。1535 年 1 月の迫害の前にマーストリヒトを離れ、その後もアムステルダムなどで活動を行った。

### 3 各地の再洗礼派指導者相互の関係

・各地の指導者間相互について以下の 5 つの関係が成り立つかどうかを検証

- 直接的関係が継続的に見られたかどうか。
- 直接的関係が一時的に見られたかどうか。(短期滞在など)
- 間接的関係が継続的に見られたかどうか。
- 間接的関係が一時的に見られたかどうか。
- 洗礼を行った、受けた関係かどうか。

#### 再洗礼派指導者同士の関係



(詳細は資料を参照)

・ミュンスターのヤン・ファンライデンは、使者や手紙を通じて、ケルンとヴェーゼルの再洗礼派指導者たちと間接的な関係を継続的に持っていた。彼は 1534 年 2 月以降常にミュンスターに滞在していたため、直接的関係を持つ機会は少なかったが、北西ヨーロッパ再洗礼派指導者達の間関係の中心的役割を果たしていた。ただし、ロールとの関係が継続していたかどうか、マーストリヒトの再洗礼派との関係がどのようなものだったかは不明。

・ミュンスターのロールは、ケルン、ヴェーゼル、マーストリヒト各地の指導者を洗礼するなど、各地の再洗礼派共同体の発展に大きな影響を及ぼした。ロールは、各地を渡り歩いていたので、一つの場所に滞在していた期間は短かった。このことは、短期間の滞在でも、その土地の再洗礼派に大きな影響力を及ぼす事が可能であった事を示す。

・ケルン、ヴェーゼル、マーストリヒトの指導者同士の間では、直接的な相互関係は見られなかった。間接的關係も、1535 年 1 月にヴェーゼルで、クニッピンクやフィンクとマーストリヒトからの使者が会談を行った事が確認できるのみ。

#### 4 おわりに

##### まとめ

\*ミュンスターの指導者ヤン・ファン・ライデンが再洗礼派指導者相互の人間関係の中心。しかし、間接的關係が主。

\*ロールの影響力が大きかった。短期間の関係でも、直接的な交流によって大きな影響力を及ぼすことができた。

\*ケルン、ヴェーゼル、マーストリヒトの指導者相互の關係は、余り見られなかった。

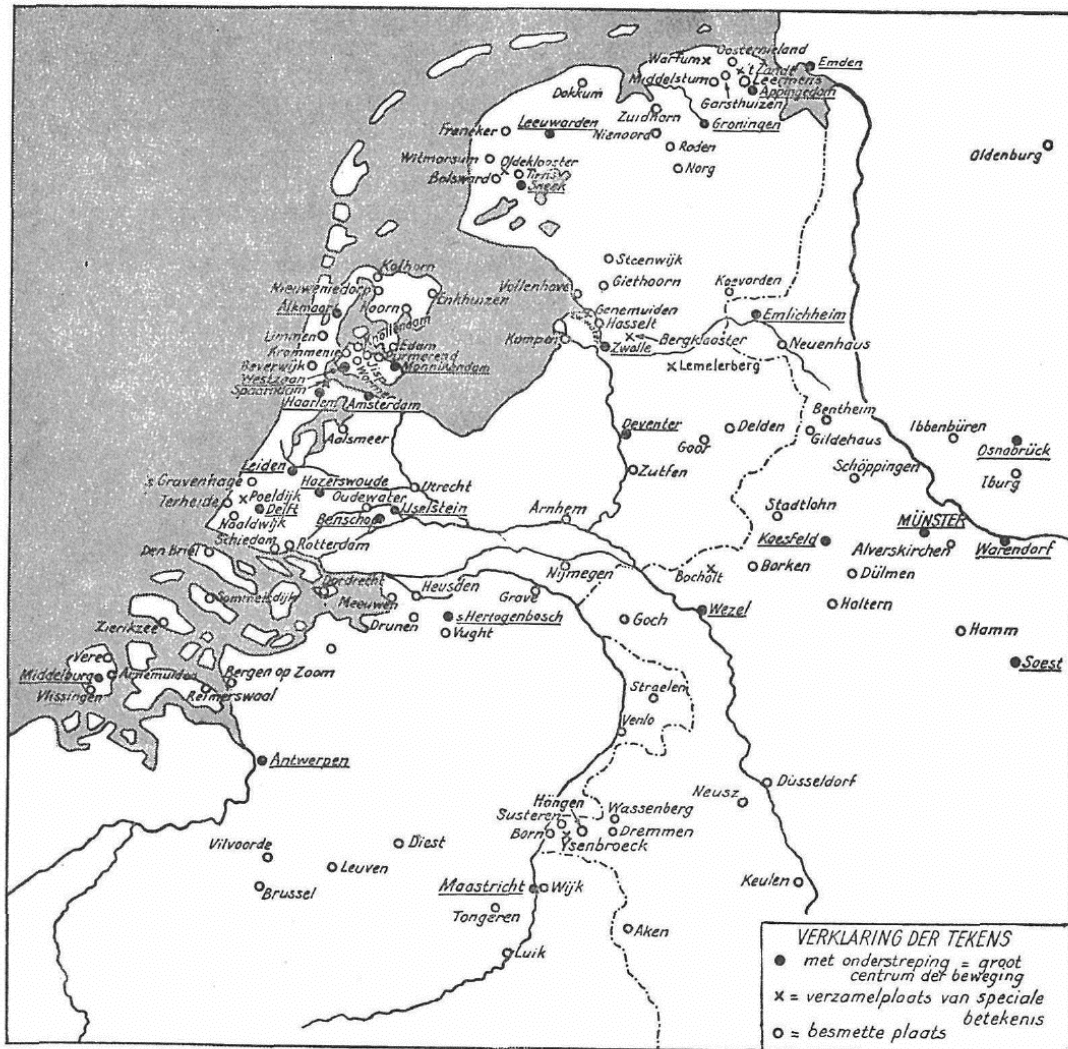
再洗礼主義は、ミュンスターから下ライン地方、南ネーデルラント各地に拡大していった。その際、使者や手紙による間接的關係と並んで、指導者本人の移動による直接的關係が大きな影響力を及ぼした。

##### 今後の課題

・指導者層に限定すれば、下ライン地方や南ネーデルラント各地の再洗礼派相互の關係は余り見られなかったが、再洗礼派は頻りに各地に移動しているため、各地では様々な場所を出身とする再洗礼派が、その土地の再洗礼派と混在していた。そのため、今後は一般信徒レベルでの人間關係を検討する事で、再洗礼派相互の影響關係と再洗礼主義の拡大の仕方を総合的に明らかにしたい。

謝辞：本研究は、平成 21 年度東北大学大学院 GP 院生プロジェクト歴史資源個別分析プロジェクト事業の研究助成及び東北開発記念財団：平成 22 年度（後期）海外派遣援助を受けて行った。

地図



Mellink. A. F., De Wederdopers in de noordelijke Nederlanden 1531-1544, Groningen 1953, XII.

## (資料) 再洗礼派指導者同士の関係

### ・ Jan van Leiden と Heinrich Roll の関係

直接的関係：継続的（1534年1月13日～2月21日）

・ヤン・ファン・ライデンは1534年1月13日にミュンスターに来た。(Niesert, S. 276) ロルは、1534年2月21日にミュンスターを離れた。(Rembert, S. 332) そのため、両者がミュンスター再洗礼派の指導者としていっしょに活動した期間は、約一ヶ月。

・ロルがミュンスターを離れた後、彼がヤン・ファン・ライデンと連絡を取り合っていたかは不明。

### ・ Jan van Leiden と Gerhard Westerburg の関係

直接的関係：一時的？（1534年1月）

・ヴェスターブルクは、1534年初めに一時的にミュンスターに滞在し、クニッパードルリンクの家でロルから洗礼を受けた。(Stiasny, S. 12; MGQ2, S. 405) ヤン・ファン・ライデンは、1月13日にミュンスターに来て、クニッパードルリンクの家に滞在していたので、両者が会っている可能性はある。(Niesert, S. 176)

間接的関係：継続的（1543年1月～9/10月）

・「ケルン、ヴェーゼル、アーヘンは、彼らの活動を知るために、その地の再洗礼派を密かに彼らのところに送っていた。Item das Collen Wesel und Aich heimlich widderteuffer dabinnen an sie gesant, iren handel zu vernemen」(Werner Scheiffart の審問記録 MGQ2, S. 293)

### ・ Jan van Leiden と Richard von Richrath の関係

間接的関係：継続的（1534年2月～10月）

・ケルンとミュンスターの間では、少なくとも1534年末までは、人の行き来があったため、ケルン再洗礼派の中心人物リヒラートも、ミュンスター再洗礼派とのやり取りに関わっていたはず。(MGQ2, S. 293)

### ・ Jan van Leiden と Heinrich Knippinck の関係

直接的関係：継続的（1534年2月～1535年）

・クニッピンクは、1534年2月にミュンスターにやって来ており、その後ミュンスターに滞在していた。彼は、少なくとも1535年1月までは生存していた。(Bouterwek, 371; Kipp, S. 340)

### ・ Jan van Leiden と Otto Vinck の関係

間接的関係：継続的

・ミュンスターとヴェーゼルの間では、Knippinck など両都市の再洗礼派の使者が行き来していた。(MGQ2, S. 293; Bouterwek, S. 373) ヤン・ファン・ライデン自身、フィンクが洗礼を受けていた事を知っていたと審問記録で述べている。(MGQ2, S. 400)

・ Jan van Leiden と Jan Smeitgen の関係

確認できず

・ Heinrich Roll と Gerhard Westerburg の関係

直接的関係：一時的（1534年1月）

・1534年初めにクニッパードルリンクの家で、ロールがヴェスタールクを洗礼。(Stiasny, S. 12; MGQ2, S. 405) 彼は、2月14日までにはケルンに戻っていた。(HASTK45 nr.15. 1r; Stiasny, S. 13)そのため、彼がミュンスターに滞在していたのは短期間だったと思われる。

・ Heinrich Roll と Richardt von Richrath の関係

確認できず

・ Heinrich Roll と Heinrich Knippinck の関係

直接的関係：一時的（1534年2月）

・ロールはおそらく1534年2月にミュンスターを離れた直後ヴェーゼルに赴いているので、ヴェーゼル再洗礼派の指導者であったクニッピンクとは知己があったはず。(Kipp, S. 341, A. 1625) ロールがミュンスターを離れたのが2月21日、クニッピンクがミュンスターに来たのが2月なので、直接交流があったのは短期間。

・ Heinrich Roll と Otto Vinck の関係

直接的関係：一時的

・1534年夏に、おそらくロールがフィンクに洗礼を行った。(Kipp, S. 341, A. 1625) ロールはヴェーゼルには短期しか滞在していなかったため、両者の直接的関係は一時的。

・ Heinrich Roll と Jan Smeitgen の関係

直接的関係：継続的（1534年8～1534年9月）

・1534年夏に、ロールが、スメイトヘンに洗礼を行った。その後、二人はマーストリヒトの再洗礼派指導者として、市内だけでなく、ユーリヒでも洗礼を行っていた。(Habets, S. 134; Rembert, S. 394, A. 1) しかし、ロールが9月に逮捕・処刑されたため、両者が共同で活動していた期間は、1～2ヶ月と短かった。(Habets, S. 227)

・ Gerhard Westerburg と Richard von Richrath の関係

直接的関係：継続的（1534年2月17日以前～1534年9/10月）

・1534年2月14日にヴェスタールクが、リヒラートに洗礼を行う。(HASTK45 nr.15. 1r; Stiasny, S. 13) その後、二人は、ケルンの再洗礼派指導者として、市内で洗礼を行う。また、ヴェスタールクとリヒラートは、共にメールスに赴いた。(HASTK45 nr.15. 1v)  
・ヴェスタールクは、1534年8月末～10月に、ルター派的活動のため支配に追放された。(Stiasny, S. 13)リヒラートは、10月に市参事会に逮捕され、11月7日に火刑に処された。(HASTK45 nr.15. 2v)

・ **Gerhard Westerburg と Heinrich Knippinck の関係**  
確認できず

・ **Gerhard Westerburg と Otto Vinck の関係**  
確認できず

・ **Gerhard Westerburg と Jan Smeitgen の関係**  
確認できず

・ **Richard von Richrath と Heinrich Knippinck の関係**  
確認できず

・ **Richard von Richrath と Otto Vinck の関係**  
確認できず

・ **Richard von Richrath と Jan Smeitgen の関係**  
確認できず

・ **Heinrich Knippinck と Otto Vinck の関係**  
直接的関係：継続的（1530 年代初め～1535 年 1 月）

・ クニッピンクとフィンクは、共に 1530 年代初めから市内で宗教改革派として活動をしてきた。クニッピンクがミュンスターへ移住してからも、彼は度々ヴェーゼルにやって来たので、1535 年 1 月のフィンクの逮捕まで、両者の関係は続いていた。(Bouterwek)

・ **Heinrich Knippinck と Jan Smeitgen の関係**  
間接的關係：一時的？（1535 年 1 月）

・ ヴェーゼルで、1535 年 1 月にはマーストリヒトから派遣された使者が、クニッピンクやフィンクと会談している。彼らを派遣したのはスメイトヘンのはず。(Bouterwek, S. 387; Mellink, S. 65)

・ **Otto Vinck と Jan Smeitgen の関係**  
間接的關係：一時的？（1535 年 1 月）

・ ヴェーゼルで、1535 年 1 月にはマーストリヒトから派遣された使者が、クニッピンクやフィンクと会談している。彼らを派遣したのはスメイトヘンのはず。(Bouterwek, S. 387; Mellink, S. 65.)



## 参考文献

### 未刊行史料

HAStK (Historische Archiv Stadt Köln) 45, Nr. 15.

### 刊行史料

Bouterwek, K. W. (Hg.), Bekäntnus einiger personen, so der Widdertauß und des Munsterschen Unwesens halben alhie zu Wesel im Jahr 1535 eingezogen worden etc. in: Zeitschrift des Bergischen Geschichtsvereins 1, 1863, S. 360-384.

Bouterwek, K. W. (Hg.), Bericht Henrici Graiß über die Wiedertäufer zu Wesel, in: Zeitschrift des Bergischen Geschichtsvereins 1, 1863, S. 385-388.

Cornelius, C. A. (Hg.), Berichte der Augenzeugen über das münsterische Wiedertäuferreich. Die Geschichtsquellen des Bistums Münster, Bd. 2, Münster 1853, Neudruck 1965. (MGQ2)

Cornelius, Carl A., Die Niederländischen Wiedertäufer während der Belagerung Münsters 1534 bis 1535, München 1869.

Detmer, Heinrich (Hg.), Hermanni a Kerssenbroch. Anabaptistici furoris Monasterium inclitam Westphaliae metropolim evertentis historia narratio, Zweite Hälfte. Die Geschichtsquellen des Bistums Münster 6. Band, Münster 1899.

Groten, Manfred (bearbeitet), Beschlüsse des Rates der Stadt Köln 1320-1550, Bd. 2. 1320-1520, Düsseldorf 1989.

Groten, Manfred (bearbeitet), Beschlüsse des Rates der Stadt Köln 1320-1550, Bd. 3. 1523-1530, Düsseldorf 1988.

Groten, Manfred (bearbeitet), Beschlüsse des Rates der Stadt Köln 1320-1550, Bd. 4. 1531-1540, Düsseldorf 1988.

De Hullu, J., Bescheiden betreffende de hervorming in Overijssel, dl. 1: Deventer (1522 - 1546), Deventer 1899.

Nagge, Wilhelm, Historie van Overijssel, Bd. 2, 1908.

Niesert, Joseph (Hg.), Münsterische Urkundensammlung, Bd. 1, Coesfeld 1826.

Redlich, Otto R., Jülich-Bergische Kirchenpolitik am Ausgange des Mittelalters und in der Reformationszeit, Bd. 1, Bonn 1907.

Redlich, Otto R., Jülich-Bergische Kirchenpolitik am Ausgange des Mittelalters und in der Reformationszeit, Bd. 2, Teil 1, Bonn 1911.

Stupperich, Robert (Hg.), Die Schriften der Münsterischen Täufer und ihrer Gegner. 1. Teil. Die Schriften Bernhard Rothmanns, Münster 1970.

Stupperich, Robert (Hg.), Die Schriften der Münsterischen Täufer und ihrer Gegner. 3. Teil. Schriften von evangelischer Seite gegen die Täufer, Münster 1983.

### 二次文献

Bax, Willem, Het protestantisme in het bisdom Luik en vooral te Maastricht 1505-1557, s'Gravenhage 1937.

- Conrad, Franziska, Reformation in der bäuerlichen Gesellschaft. Zur Rezeption reformatorischer Theologie im Elsass, Stuttgart 1984.
- Cornelius, C. A., Geschichte des Münsterischen Aufruhr. Erstes Buch. Die Reformation, Leipzig 1855.
- Cornelius, C. A., Geschichte des Münsterischen Aufruhr. Zweites Buch. Die Wiedertaufe, Leipzig 1860.
- Goeters, J. F. Gerhard, Die Rolle des Täuferturns in der Reformationsgeschichte des Niederrheins: in: Rheinische Vierteljahresblätter 24, 1959, 217-236.
- Goeters, J.F. Gerhard, Die Entstehung des rheinischen Protestantismus und seine Eigenart, in: Meyer, Dietrich (Hg.), Studien zur niederrheinischen Reformationsgeschichte, Köln 2002, S. 127-186. (Rheinische Vierteljahresblätter 58, 1994, S. 149-201.)
- Habets, Jos, De Wederdoopers te Maastricht. Tijdens de Regeering van Keizer Karel V, gevolgd door aantekeningen over de opkomst der hervorming te Susteren en omstreken, Roermond 1877.
- Kipp, Herbert, "Trachtet zuerst nach dem Reich Gottes" - Landstädtische Reformation und Rats-Konfessionalisierung in Wesel (1520-1600), Bielefeld 2004
- Kirchhoff, Karl-Heinz, Die Täufer im Münsterland. Vorbereitung und Verfolgung des Täuferturns im Stift Münster 1533-1550, in: Westfälische Zeitschrift 113, 1963, S. 1-109.
- Ozment, Steven E., The Reformation in the Cities. The Appeal of Protestantism to Sixteenth-Century Germany and Switzerland, New Heaven and London 1975.
- Rembert, Karl, Die "Wiedertäufer" im Herzogtum Jülich. Studien zur Geschichte der Reformation, besonders am Niederrhein, Berlin 1899.
- Scribner, R. W., For the Sake of Simple Folk. Popular propaganda for the german reformation, Oxford, 1981.
- Scribner, R. W., Oral Culture and the Diffusion of Reformation Ideas, in: Scribner, R. W., Popular Culture and Popular Movements in Reformation Germany, Landon and Ronceverte 1987, pp. 49-69 (History of European Ideas 5, 1984, pp. 237-56).
- Stiasny, Hans H., Die Strafrechtliche Verfolgung der Täufer in der freien Reichsstadt Köln 1529 bis 1618, Münster, 1962.
- Warthuysen, Günter, Folter und Todesstrafe für Wiedertäufer. Der Weseler Täuferprozeß des Jahres 1535, in: Heimatkalender des Kreises Wesel 1984, S. 72-84.
- Zijlstra, Samme, Nicolaas Meyndertsz van Blesdijk. Een bijdrage tot de geschiedenis van het Davidjorisme, Groningen 1983.
- 倉塚平『異端と殉教』筑摩書房、1972年。
- 倉塚平、田中真造他編訳『宗教改革急進派 ラディカル・リフォーメーションの思想と行動』ヨルダン社、1972年。
- 倉塚平「ミュンスター再洗礼派王国論(1)」(『政経論叢』明治大学政治経済研究所紀要 56巻 5/6号、1988年、1-119頁)。
- 森田安一『ルターの首引き猫 木版画で読む宗教改革』山川出版、1993年。